



No. 97

発行人・渋沢茂
発行所・(社)千葉県社会福祉士会事務局
〒260-0026
千葉県千葉市中央区千葉港7-1
塚本千葉第五ビル3F
TEL043-238-2866
FAX043-238-2867
<http://www.cswchiba.com/>
E-mail: office@cswhiba.com
※点と線はメール配信でも読めます!

特集 新任理事・監事 これからの社会福祉士を語る



2014年、ソーシャルワーク専門職のグローバル定義が IFSW および IASSW のメルボルン総会において採択された。それは2001年の旧定義からの変革である。

ソーシャルワークは、社会変革と社会開発、社会的結束、および人々のエンパワメントと解放を促進する、実践に基づいた専門職であり学問であり、ソーシャルワークの理論、社会科学、人文学および地域・民族固有の知を基盤として、生活課題に取り組みウェルビーイングを高めるよう、人々やさまざまな構造に働きかける（一部抜粋）。

ミクロからマクロへ、理論の活用から知の利用へ、使命は解説から任務へと変わった。

千葉県社会福祉士会、新体制始動！！

《特集》

2 新任理事・幹事 これからの社会福祉士を語る
平成30年度 千葉県社会福祉士会新理事体制

7 誌面スーパービジョン

8 地域集会 印西・栄・成田・富里地区

9 社会福祉士のわ

10 事務局便り

特集

新任理事・監事

これからの社会福祉士会を語る

千葉県社会福祉士会会長

渋沢 茂（しぶさわ しげる）



六月二四日の総会で、今期も会長になりました渋沢です。プロフィールや会長になるまでの経緯と、当時考えていた課題などは二〇一六年七月発行の点と線九一号をご参照ください（千葉県社会福祉士会ホームページから見られます。以下、理事会や総会の議事録も同）。まずは二年間会長を務めさせていただいて、印象的だったことをいくつか記します。

一つ目は「ささえ合い制度（負担金制度）」のことです。制度のあり方と運用について様々な意見がありました。スペースが限られているので詳細は省きますが、平成二十七年には当時の会長宛に会員有志の方から質問及び要望の文書をいただいていたことが、明確な回答を示すことができなかったままに新執行部に引き継がれました。平成二十九年三月理事会では沢山のご意見をいただきました。これまでの経緯もある程度まとめ、答えていますので興味がある方は議事録を参照ください。その後、制度を作った方、ばあとなあの方と話し合いをしました。公開の意見交換会も行いました。一つのこと（制度）について、かくも異なる見方があることを思いました。時代や立場の違いによって見えてくるものが変わっ

てくるのだと思います。お一人一人の考えを伺って、現状を整理して、持っている情報を公開しました。そして制度の課題とあり方を一緒に考えました。とても時間がかかりましたが、一定の方向性をようやく共有することが出来ました。これからどうするか、もうひと頑張りです。

二つ目は代議員制度についてです。代議員の方には年間二回の総会に出席いただいています。皆さんに気持ちをもつてご参加をいただいています。総会だけではお伺いできていないと感じていました。せっかく来てくださっているのにもったいない。そこで平成二十九年六月総会の後には代議員の方との交流会を行いました。以後、交流会は総会後に定例で行っています。

平成三十年三月の総会では、事業計画と予算の決議権を総会から理事

会に移すことを規定した定款の変更について、沢山のご意見をいただきました。会場の雰囲気は否定的な意見が多数で、参加した代議員十四名のうち賛成は三名のみでしたが、書面での二七の賛成票を合わせて議事は承認されることになりました。現場の議論を決議に反映することができませんでした。議事を承認したことは定款で定められた手順に沿ったことで間違いのないことなのですが、個人的には違和感を抱いているところです。さて、これからどうしたものか：

ウィキペディアで「職能団体」と調べてみると、このように記されています。

「職能団体とは、法律や医療などの専門的資格を持つ専門職従事者らが、自己の専門性の維持・向上や、専門職としての待遇や利益を保持・改善するための組織である。同時に、研究発表会、講演会、親睦会の開催や、会報、広報誌などの発行を通して、会員同士の交流などの役目も果

たす機関でもある。」そして、「主な職能団体」の項目には数多ある団体を外に、「社会福祉士会」は（本稿執筆の時点で）その名が記されていません。社会福祉士はソーシャルワーカーとして自立しているのか？社会福祉士の「専門性」は確立していないのではないかと僕は思います。

そして、皆さんは日本社会福祉士の倫理綱領、読んだことありますか？僕はこれ、ちよつと気に入りません。理由の一つは「サービス利用者本位の質の高い福祉サービスの開発と提供に努めること」とされていること。福祉はサービスで良いのか？目の前にいる彼や彼女との関係を「利用者」と位置付けて良いのか？福祉の仕事をする人が大事にしたいことはサービスをつなぐのではなくて尊厳を守ることだと思います。それに、この倫理綱領では、現実に対応して、どんな職場で働く社会福祉士をイメージしているのだろうか、あまりにもキレイごとすぎるのではないだろうかと思います。

これから千葉県社会福祉士会が目

指したいことを二つ記します。

一つ目として、社会福祉士の資格を持った方が働いている環境は幅広いです。考えていることの違いもとても大きいです。先述したように社会福祉士の専門性とは何かは確立されていないと思います。ですから社会福祉士会が会として一つの方針を持つてまとめるのは無理があるのではないかと思うのです。無理にまともうとすればバラバラになってしまうのではないかとも思います。まず目指すべきことは、お互いの考えや実情を理解し合うこと。そして、自身が謙虚になって相手をリスpekトする。そんな事ではないかと思えます。

二つ目は、千葉県社会福祉士会が、一人一人のやりたい事が出来る場になると良いと思います。学習会とかイベントとか話し合いの場を作ることとか。社会福祉士会を使って活動が出来る場になると良いと思います。そのために今年度は予算の中で予備費を多くとり、年度中の予算補正を行いやすい仕組に変えています。やりたいこと、やってほしいこ

と、興味関心があること、ご意見をいただければ幸いです

平成三十年度

千葉県社会福祉士会新理事体制

会長…洪沢茂

副会長…常陸谷政彦、四ノ宮章、浅見雅人

事務局長…榎林元樹

事務局次長…岡本武志、竹嶋信洋

総務委員会（企画・広報）…

岡本武志、山口利史、古澤肇

総合相談委員会（地域包括・相談事業）…竹嶋信洋

研修委員会（研修啓発）…

浅見雅人、宮本哲男、宮下朱実

司法福祉委員会…大浦明美

ぱあとなあ…小川晴雄、四ノ宮章

災害対策委員会…

市原久夫、服部明

松戸市事業…宮本哲男、竹嶋信洋

監事…山口定之、奥野不二子

常陸谷 政彦

(ひたちや まやひこ)

おらが町に福祉施設ができて数十年、在宅サービスができて十数年、当初、なんか嫌だなんて思う人もいたけど、今ではすっかり社会資源のひとつになっていく。福祉って流動的で時代とともに形も変わる。ぼんやりしているけど、その形をつくり続けること。それと業界にとらわれず開放的に社会と結びつける普通の感覚も大事なな。



四ノ宮 章

(しのみや あきら)

多様な生活課題を抱える人々が増加しつつある中、「人権擁護」を職業倫理とする社会福祉士は、他専門職や行政、地域住民とともに、創意工夫に満ちたソーシャルワークを展開していくことが求められています。

千葉県社会福祉士会がそうしたソーシャルワークを支える役割をいささかも担うことができれば、と考えています。



浅見 雅人

(あさみ まさと)

当会の存在意義は、会員である社会福祉士がどう動くのかと共に当会が社会の目線に合った組織になっているか、それとも間違った方向に向いているかに尽きると思います。専門団体としてまずは何をしなければならないと考えた時、専門的なスキルを考察し探求していく姿勢が今まさに求められています。



榎林 元樹

(くればやし もとき)

熊本地震のお手伝いに行った時に一緒に活動した宇土市のSWのお話を紹介します。「熊本県社会福祉士会は地震が起きる少し前に総会があり、そのあと、熊本城に皆でお花見に行ったんです。熊本地震が起きて大変だけれど、お城も倒れないで頑張っているんだから、皆で頑張ろう！という合言葉で被害の大きかった地域をみんなで手伝っているんですよ。」東日本大震災の時、私も浦安でたくさん仲間に助けてもらいました。仲間同士気にかけてあえる素敵な絆でつながっている社会福祉士会を大切にしていきたいです！



竹嶋 信洋

(たけしま のぶひろ)

情熱カラ回り、の竹嶋です。渋沢

会長と榎林事務局長なら「何かが変わる！」そう信じてお仕えしております。本会への加入率は低空飛行を続けてますが、そのこと事態は大事ではないです。しかし、せっかくある団体です。ここに来たら「オラ、ワクワクすぞ！」となるような団体にしたいです。北海道でロケットを作っている植松努さんの「『どーせ無理』をなくそう」この言葉を信じ、会の活動に取り組んでいきます。



岡本 武志

(おかもと たけし)

社会福祉士が、成年後見や病院・行政機関などで活躍するようになってきた現状ではありますが、社会福祉士の専門性が世間どの程度認知されているのか疑問に思っています。これからの社会福祉士は、

自己研鑽に励むとともに、自身の専門性を積極的に表明することで、世間からの信頼獲得に努めていく必要があると考えます。



山口 利史
(やまぐち としふみ)

孤立しがちな利用者を支える社会福祉士には、バラバラになりがちなの一つの点を結びやさしさと、線と線を包み込むおらかさが求められます。社会福祉士会はそれを蓄えられるような仲間たちの集まりでありたい。『点と線』がその出会いの一助になればと思います、広報していきます。



小川 晴雄
(おがわ はるお)

理事として社会福祉士の活動に参画して思うことの一つに、代議員制度の機能が生かされていないことを痛感しています。地域会員の声が届く仕組みづくりを考え、会の活動が会員や地域に生かされるように努めます。



大浦 明美
(おおうら あけみ)

司法福祉委員会では、主に刑事司法ソーシャルワーカー養成講座の開催と、マッチング支援事業により弁護士と協働して軽微な罪を犯した障害者等の福祉的支援を行っています。この社会福祉の新たな領域は、高齢者福祉、障害者福祉等各領域の知識と経験が役立ちます。会員の皆さま、委員会に

入って実践と研究を積み重ねませんか。



宮本 哲男
(みやもと てつお)

社会福祉士は移り変わる時代(政策・制度)や福祉ニーズに絶えず対応しなくてはなりません。社会福祉士が多様な分野に進出している一方で、個々の専門分野に埋没してはいないでしょうか。会では専門職の団体として会員を強力にサポートしていく必要があると思います。ただ、忘れてほしくないのは会を構成する皆さんの力が必要であるということです。



宮下 朱実
(みやした あけみ)

「ぱあとなあ」で後見人を受任し、多くの課題や問題の解決に向けて活動している。被後見人の今日までのことを理解し、死を迎えるまで寄り添う仕事である。社会福祉士としての倫理綱領は勿論のこと理論を意識し行動記録を残す。これからの社会福祉士として、社会福祉士会生涯研修制度の豊富な研修を受けながら専門性を高めていきたい。



市原 久夫

(いちばら ひさお)

「社会福祉士って何？」 大方の世間の見方でしょうか。少子高齢化など地域課題に取り組む中心的存在として期待に応えられているか。地域住民、行政、他の機関、他の職種との連携の中心になり、ソーシャルワーク機能を発揮すること。社会福祉士の存在意義を高め、責任を果たすこと。日頃の仕事の延長線上にそんな活動を地域でやれる社会福祉士。それを繋ぎ合わせ、支援するのが社会福祉士会ですよね。



服部 明

(はっとり あきら)

このテーマを「これからの社会福祉士会に期待されること」として捉えるならば、地域共生社会の

実現に資する体制構築を推進する

ソーシャルワーク専門職としての社会福祉士が、実際に果たしている役割や成果を、社会福祉士会会員や非会員社会福祉士、他のソーシャルワーク専門職、さらには地域・社会の人々に伝えていくことで、私たちに對する理解と共感を高めていくことも、その一つであると考えます。



古澤 肇

(ふるさわ はじめ)

会への期待として、一つ目は「魅力があり、喰えるソーシャルワーカーモデルの探求」をしていきませんか？未来ある世代に旗印を掲げていきたいと考えます。二つ目として各エリアでの研修会等の開催を望みます。

地域の実情や内容に合わせて研修会場等を考慮していきませんか？社会福祉士会の変革を矜持をもつて共に取り組みましょう。



山口 定之

(やまぐち さだゆき)

能力優先、合理化優先、利益追求型資本社会はどこか殺伐としている。それらに適応困難な一定層の大人や子供が罪もないのにひきこもりや不登校、反社会的行動、様々な精神症状などにつながっているような気がしてならない。福祉や介護の事業に、そのような利益追求型の仕組みは似合わない。現代社会とは異なる環境で彼らの居場所を作ろう。



奥野不二子

(おくの ふじこ)

生活支援体制整備事業の二層コーディネーターとして、主に地縁団体の方と一緒に地域支えあいの仕組みづくりに取り組んでいます。モデルのない事業なので、関係者が連携し試行錯誤で進めていますが、会の地域福祉活動部門の一つとして、多くの会員がこの事業に参加されることを期待しています。



誌面スーパーインタビュー

浦安市社会福祉協議会
地域づくり班 菊地優香

(きくちゆうか)

浦安市社会福祉協議会に入職し一ヶ月が経ちました。この一ヶ月は、当たり前ですが分からないことばかりで緊張しっぱなしの毎日でした。

業務内容はもちろん、職員の方々と支部社協の推進委員の方々の顔と名前等を覚えることや、土地を知ること、毎日同じ時間に出勤すること、慣れないことを覚えることとで精一杯であったと感じます。

そのような中、様々なサロンや地域の方の居場所となる拠点

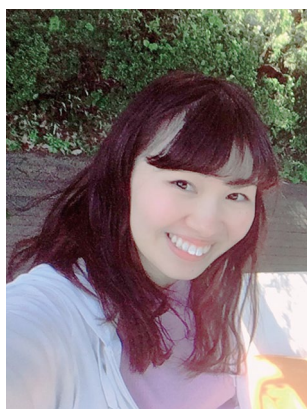
「ぽっかぽか」の利用者の方と関

わらせて頂きました。独居の方や、家ではなかなか笑ったり、話したりする機会が少ない方々が、同じ時間を共有し、楽しく過ごされている様子を見せていただきました。

人と談笑し、自分が必要とされることは、いきいきと生活するため

に大切であると考えます。

そのため私は、このような場所がたくさんの方にとつての居場所として利用され、この場所をまだ知らない方や利用を迷われている方にとつても、今後、大切な居場所となるように、今の思いを忘れずに利用者さん、先輩職員の皆さんとともに誠実に向き合っていきたいと思っています。



菊地さんへ

柏市社会福祉協議会

瀧澤孝悦

(たきざわたかよし)

浦安市社会福祉協議会への入職、おめでとうございます。

はじめての経験ばかりのなか、期待に胸を膨らませて一生懸命に取り組まれている姿が目には浮かびます。

社会福祉協議会の使命のひとつは、「孤立しない社会」をつくることであり、そこには、様々なチャネルの居場所がたくさんあることが大切だと考えています。そのため住民力を支える仕事は、私自身も大いにやりがいを感じながら仕事をしています。

菊地さんは、「自分が必要とさ

れることはいきいきと生活するために大切」とおっしゃっています。そうした視点・考えが、人を支援するうえで、これからも大事にしていくべきことの一つだと思います。「居場所」を、その人が「必要とされる場所」ととらえると、

家庭内やコミュニティのなかでどのように役割を果たし、「居場所」を確保しているかをとらえやすくなります。

そこを起点として、利用者さんや被援助者さんを理解すると、「本人らしさ」を大事にした直接援助や間接援助ができると思います。

入職して間もないなかで、そこに気づいた菊地さんはきっと、人を支援する素質をお持ちなのでしょうね。

ぜひ、「誠実に向き合う」気持ちをいつまでも持ちながら、素敵なCSWになることを期待しております。私も「誠実に向き合う」CSWを目指します。お互い頑張ります。



地域集会

印西・栄・成田・富里地区

西いんばソーシャルワーク研究会
社会福祉事務所「阿吽」

薄井 哲子

(うすい てつこ)

平成二七年二月、社会福祉士に限らず、幅広い福祉関係者が交流できる地域集会を我々の地区でも作りたいとの思いで、市川澄子さん(千葉県後見支援センター勤務の社会福祉士)・赤堀久里子さん(精神保健福祉士及び社会福祉士)・そして薄井の三人が世話となり活動を始めました。西印旛地区の範囲は広いので、大まかに白井市・栄町・成田市・富里市とし、

居住区域か勤務区域のどちらを選んでもらうかは、参加者自身に判断してもらう事としています。尚、地域集会開催場所につきまして、多くの方が参加しやすい場所をと集会ごとに模索している状態です。

地域集会で大切な「テーマ」に關しましては、参加者の意向を聞きながら、福祉現場の専門職として活躍されている方々から話題提供をお願いしたり、弁護士・医療職等に、より深い知識を深めるための協力を得るという方針で、これまで九回開催することができました。詳細は以下の通りです。

平成二七年五月の第一回目は、フリートーク形式で開催し、社会福祉士・包括支援センター・社会福祉協議会・高齢者施設・医師・看護師等と各分野で活躍している方々二十名の参加がありました。二回目は、「地域包括ケアシステ

ム」について地域包括支援センター勤務の方に、三回目は「生活困窮者自立支援」について社会福祉協議会の方に、四回目は「精神疾患の基礎知識」について養護老人ホーム勤務の精神保健福祉士でもある方に、五回目は「地域医療と在宅医療の学び」について医療相談員勤務の方に、六回目は「司法の福祉！おしえて弁護士さんの仕事」について法テラス千葉法律事務所の方、七回目は「障害者の地域生活支援と障害者総合支援法」について社会福祉士法人理事長の方に、八回目は「成年後見制度と実践と課題」後見人の本音」を発起人の薄井哲子が担当、九回目は、今年の四月八日に栄町にある「ふれあいプラザさかえ」にて二五名の参加のもと、「認知症の人の理解と対応」についてグループホーム勤務の方と「認知症疾患医療センター」について神

経内科勤務の方のお二人にお願いしました。

毎回、会場の時間の関係で質疑応答に十分な時間が取れません。その後の懇親会で埋めてもらえることを期待しています。尚、今年四月に開催された地域集会では、会場の都合等で、懇親会を設けることができず申し訳なく思っております。

これからの西いんばソーシャルワーク研究会の方針としましては、年三回の開催を目標にし、日々の活動での疑問や悩み等を共有していきながら、仲間同士で大いに切磋琢磨していただける会になることを希望しています。

社会福祉士のわ

相談支援事業所きらり

秦野 隆治

(はたの りゅうじ)

前回の田尻さんからバトンを受け継ぎました。普段は相談支援専門員として障害がある方々の相談にのっています。先日にも包括から「高齢夫婦のお宅の二階に息子さんがある。足が痛くて下に降りられない。障害があるかもしれない」と連絡が入りました。さっそく二〇分後に自宅訪問、安否確認と受診の段取りを付けました。現場へ急遽駆けつけるのがけっこう好きな私です。

ソーシャルワーカーとしての私のスタートはとても遅く、基礎研修を終わったのはもう四〇代後半でした。

高度成長期の波にのって千葉の田舎から東京へ出てきた両親の下、都内の小さなアパートで育ちました。妹と、一台しかない白黒テレビのチャンネル権を激しく奪い合っていたのを覚えています。典型的な核家族で、何度か引っ越し

転校を繰り返しながら、過敏で傷つきやすい人格を形成していったようです。今でも人と接すると大きく影響されてしまいます。最近ではこういう人をHSP(ハイ・センシティブ・パーソン)と言うようですが、プラスして部屋でじっとしてられない自分の性分はADHD気味でもあります。思春期にはご多分に漏れず中二病にかかり、悩み、世間に恨みを感じつつ性格上グレることもできず(情けない)、某大学で哲学を専攻、バブル経済の興亡には一切無縁で大学院まで進み、人と社会とに背を向けてひたすら万物の根源を究明しようと努めておりました。ちよつと病んでいた？

実に空想的・観念的になってしまった私は、その後も現実世界を前にして悶々としていました。修士論文の延長で留学を夢見ていたユーゴスラビアでは内戦が始まり国連軍が爆弾を落としていました。方向性を失った私は、万里の長城を歩いたり、イギリス留学したり、パチンコ屋で働いたり、ふらふらしながら三十才になってしまいました。籍も入れないまま子どもを授かり、何はともあれ稼ぐために、エイっ！と福祉の世界に飛び込んだのでした。そこは知的障害者の入所施設。掃除、洗濯、食事や

排泄、布団の上げ敷きから雑巾の絞り方、体力作りや仕事のイロハまでを徹底指導するという現場でした。ここで十七年間利用者と寝食を共にするように働き、生活者支援の基本を学びましたが、施設でほぼ全てが完結することに息苦しさを感じていた時、社会福祉士の資格を知りました。もう四〇才代でした。二年間の通信教育を受け、一度落ちながらもやっと合格しました。ですが、残ったのはなんと借金。登録料を国に払ったら社会福祉士会に入ってお金はさらになく、入会は一年後でした。働けば働くほど陥る《現代の貧困》は決して他人事ではありませんでした(今も怖いですが)。

ともあれ資格を取り、社会福祉士の口利きで相談支援事業所に転職し、今では新人相談員と二人で地域に住む二六〇人あまりの障害がある方やご家族の訴えに応えようと努力しています。毎日のように色んなことが起きるので心労も多大ですが、培った知識・価値・技術を駆使して切り抜けるスリルある日常が自分の性分に合っているようです。

昨年から個人事業所を立ち上げて成年後見業務をこなしています。地元NPO法人でひきこもり支援も始めました。モデルケース

で知的障害者の生活指導も始めました。かなり充実してきました。おかげで借金も返済できました(住宅ローンは別)。

昨年読んだ本からで恐縮ですが、「漫然と迎える未来は、ますます時間に追われ、孤独になり、繁栄からも取り残されるが、専門職として自分を磨き、信頼できる同志と手を携え、自分らしい働き方を主体的に選べば違う未来が訪れる」とのこと。今、次の選択肢を真剣に考えているところです。

またひよんなことから佐倉・四街道・八街地区の地域世話人もしています。参加者は決して多くはないですが、毎回深い交流ができています。苦勞している時何より力強いのは仲間の存在です。たまには職場から離れて、我々自身の存在の重さを確認し合いましょ。ぜひご参加ください。皆さま、今後ともどうぞよろしく願います。



事務局便り

今年も暑い夏が来ました。みなさまいかがお過ごしでしょうか。
さて、会員のみなさまのご協力のもと、第6回定時総会を無事に開催することが出来ました。ご出席いただいたみなさま、書面表決・委任状をご送付いただいたみなさま、ご協力ありがとうございました。
今後とも、ご理解・ご協力を宜しくお願いいたします。
お忙しい日々をお過ごしのことと思います。暑さますます厳しき折、くれぐれもご自愛ください。

研修等・行事のお知らせ

※研修等が新たに決定した際にはホームページに随時掲載致します。是非チェックしてください。

千葉県社会福祉士会ホームページ：<http://www.cswchiba.com/>

【以下、今後の研修予定】

- ・研修委員会-実習指導者講習会他
- ・権利擁護センターぱあとなあ千葉運営委員会-必須登録員研修 2、レベルアップ研修 2、ぱあとなあ千葉サポート、テーマ別弁護士との事例検討会、成年後見名簿登録研修他
- ・司法福祉委員会-刑事司法ソーシャルワーカー養成講座（応用編）

ようこそ！千葉県社会福祉士会へ

氏名	居住地	勤務先	氏名	居住地	勤務先
白井 陽子	市川市	市川市高齢者サポートセンター大柏	池田 香菜子	南房総市	—
古賀 宣文	佐倉市	千葉市あんしんケアセンター千葉寺	森田 淳	館山市	司法書士 山崎勝弘事務所
梅澤 岳	浦安市	浦安市役所	阿部 みどり	千葉市	—
弘中 かつこ	松戸市	メイトケア(株)グループホーム中金杉	山口 幹雄	袖ケ浦市	—
安藤 利昭	流山市	柏西口地域包括支援センター	安藤 功未子	流山市	—
中野 みどり	市原市	—	中島 浩紀	千葉市	法務総合研究所研究部
風見 亜津子	茨城県守谷市	—	坂根 亜衣	佐倉市	—
今関 勇太	大網白里市	(福)千葉シニア 居宅介護支援事業所 まごころ館 四街道	木下 映実	八千代市	—
堀口 美千代	野田市	メンタルサポート野田そよかぜ相談支援センターそよかぜ	田中 章友	千葉市	—
佐藤 由起子	千葉市	千葉市あんしんケアセンター土気	村嶋 信	船橋市	(株)アヴァンティスタッフ
和田 和美	印旛郡	—	宇山 美奈子	南房総市	—
矢島 恵理子	松戸市	—	茂木 佐知子	—	(福)フラット相談支援事業所 座ぐり
倉田 みどり	船橋市	—	伊勢 和枝	銚子市	銚子市養護老人ホーム 長崎園
中嶋 弘美	市原市	—	百田 清美	松戸市	特定非営利活動法人ねばあらんど
袴田 美緒	流山市	—	本橋 宏一	旭市	総合病院国保旭中央病院老人ホーム東総園
朝岡 秀孝	木更津市	(福)梅香会 特別養護老人ホーム矢那梅の香園	中村 賢久	白井市	—
星 康範	市原市	相川クリニック	萩野 史啓	野田市	(福)野田みどり会 野田市立あおい空

※正会員登録書「点と線掲載の可否」の項目で、可に○を頂いている方のみ掲載しております。（順不同・敬称省略）

平成30年5月末現在の会員数

正会員 1,465 名、 準会員 4 名、 賛助会員 2 名 合計 1,471 名